非核・いしかわ

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

2023年6月20日　月刊第299号

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は92か国、批准は68か国（6月15日現在）

1面 核兵器廃絶いしかわフォーラム 議員ウォッチ・中村涼香さんを迎えて
3面 野々市市長及び議長と核兵器禁止条約への対応を懇談
4面 「ゲン」フィールドワーク参加報告 末友雅子
5面 「ゲン」50周年記念イベント参加報告 白﨑良明
6面 都道府県立図書館に「ゲン」寄贈アンケートを実施 神田順一
＜独標＞未来の君に届けたいもの 小 洋
7面 谷口善太郎から学ぼう 戦争を記録することの大切さ 近藤啓子 伍賀一道
8面 戦争遺跡と平和の記念碑 佐藤公男
絵手紙コーナー 坂本朋子

活動交流報告

核兵器廃絶いしかわフォーラム
議員ウォッチ・中村涼香さんを迎えて

写真はフォーラム参加者

発言する中村涼香さん
（長崎の被爆3世）

一通のメールから始まった

五月二七日午前、金沢歌劇座にて「核兵器廃絶フォーラム　石川から発信する　わたしたちの〝次の一歩〟」が開催された。このフォーラムは今年二月ピースボートの川崎哲氏らが取り組んでいる「議員ウォッチ・プロジェクト」からの一通のメールで提起され、常任世話人会で検討のうえ非核の政府を求める石川の会が主催して県内で平和に取り組む市民団体の交流と「運動に新風を」との思いで企画された。前日には野々市市の粟貴章市長、北村大助議長と懇談（三、四面に懇談要録を掲載）した上でのフォーラムの開催であった。

井上英夫代表世話人が進行役で最初に県内の三団体の活動報告を行なった。

横山さん：中間世代としての若い世代につなぐ役割が

「核戦争を防止する石川医師の会」副代表世話人・横山加奈子さんは、原爆が投下されたら医師は何もできないからとの思いで核戦争を防止しようと取

花鳥風月

キナ臭い昨今、改めて先の大戦が何故に起こり、何故に止められなかったのか、日本国民挙げて再検証すべきだろう。「八紘一宇」「大東亜共栄圏」「治安維持法」「大政翼賛会」「産業報国会」等からの想起だけでなく、他の視点からも必要だ▼例えば外圧による開国後、日本人は西欧列強への羨望や畏敬の一方で、圧力と恐怖から逃れたいとする衝動が対外戦争という暴力欲求へと変化し、それがエスカレートしたという自覚があるのだろうか。「台湾出兵」による植民地奪取というよこしまな経験は、まさに被抑圧者の抑圧者への変身だった、という自覚があるのだろうか▼もとより日清・日露戦争は防衛戦争だと強弁し、先進資本主義国が行った侵略戦争による海外領土保有は必然とすること自体、大国主義の模倣であろう。ここには事実上の従属外交に身を委ね、自立することの真剣さを欠き、今に至るまで自らの帰属意識を曖昧にしているという、日本の根本的弱点が残されている▼近代日本は戦争という国家暴力に依拠することで、国家国民を破滅させた歴史を歩んだ。軍事同盟による対立という国家暴力の連鎖を断つ、わが国の自立と主体性の取り戻しが今、必要だ。繰り返しは許されない。（中）

り組んでいる。毎年九月の国連・核廃絶デーにて被爆者証言を聞く会やアーサー・ビナードさん、田上直久長崎市長らを迎えての講演会などのイベントを開催、ＩＣＡＮがノーベル平和賞を受賞した時には自分達が受賞したのだと意気込んで街頭宣伝にも立ち、二〇二一年に核兵器禁止条約発効記念誌を発行した。自分が中間世代として若い世代につなぐ役割があるとの思いを持って取り組んでいる。

◆神田さん：「はだしのゲン」を広島市の教材から外す動きに危機感を

「ＮＰＯ法人はだしのゲンをひろめる会」事務局長・神田順一さんは、漫画「はだしのゲン」の英語、ロシア語版訳などの翻訳者を中心としたＮＰＯ法人を県内団体が協力して二〇一二年一二月に設立。一〇年間で三四カ国に三四六セットを寄贈、原水爆禁止世界大会の海外代表や都道府県立図書館にも普及している。

最近の動きとして広島市教育委員会が「はだしのゲン」を学校教材から削除して別の被爆証言に差し替えた動きとともに、各学年で佐々木禎子さんや第五福竜丸事件の記述が削除されたり、学習の狙いが「核兵器廃絶」から「核軍縮」に変更されたりと、核抑止論にもとづいて日本政府の考えを理解するように導いていると問題視している。

この動きに対して取材が殺到しているが、メディア記者の取材後の好意的な感想に励まされて連載開始五〇周年記念イベントに取り組んでいる。

◆新井田さん：「署名推進連絡会」は被爆七〇周年意見広告の取り組みが土台

「核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名石川県連絡会」事務局長・新井田義弘さんは、この運動は二〇二〇年の被爆七〇周年の意見広告に一二五団体一〇四三人の協力があったことが土台だったと語り始めた。

二〇二一年一月に核禁条約が正式に国際法として発効したが、日本政府は署名も批准もしないという態度をとり続けている。署名を大規模に集めてこの政策を変えたいと、再度呼びかけ人に訴えて「署名推進連絡会」を発足させた。

今まで毎月二回の街頭署名行動と平和行進の事前要請のため県内全自治体を訪問している。非核・平和の願いは政党政派の違いを超えて広く深い一致点があり、訪問で実感している。また地方議会による核禁条約への政府の署名・批准を求める意見書採択は白山市、内灘町にとどまっている。これまで議長との懇談ではいい話にはなるが議会としての態度表明には至っていない。住民による請願や議員個人への働きかけなどをして工夫をはかりたい。

◆特別ゲスト中村涼香さん：「自分たちが当事者だ」

フォーラムの特別ゲストとして登場した中村涼香さんは長崎の被爆三世として高校生の時から運動に参加、東京で大学生として議員ウォッチの運動に居場所を見つけて関わるようになったと自己紹介。学生らによる〝ＫＮＯＷＮＵＫＥＳ　ＴＯＫＹＯ〟は「この問題の当事者は自分たちだ」という思いはあるが、運動が学生時代に限られてしまうとの問題意識があった。今、学生として議員ウォッチのキャンペーンの中にいるが、若者に自由な発想で活動の場を与えてもらっている。国会議員の三六％は条約に賛成だが残りは未回答。いわば態度表明なしでは議論できない。地方議会から意見書提出の動きを作りたいと四七都道府県を対象に働きかけをしている。

昨年六月にウィーンで行われた核禁条約締約国会議に参加しようと空港で搭乗開始を待っている時にオーストリア大使館から一件のメールで「前日のオープニングセッションで被爆三世としてスピーチをしてほしい」と、突然の申し出に驚いたがまたとない機会とすぐ「ＹＥＳ」と返事を送り、一四時間のフライトの中で必死に七分間のスピーチを考えた。当日は被爆者から借りた着物を着てスピーチに立ち、このセッションには日本代表も参加しているので「次の日から締約国会議に欠席することを残念に思う」と一文を加えたら大きな拍手が起きた。まさに世界中が日本の参加を待っているのだと思った。直接交渉になったし、メディアを通じて拡散することもできた。

今後の展望は「運動を生業にしたい」

フロアーの参加者との意見交換の最後に、中村涼香さんは人類を核の危機から救う運動をしているのだから、「運動を生業（なりわい）にしたい」と締めくくった。県内の三つの市民団体はいずれも「視線は世界に、活動は草の根から」と地域からの変革を願って誇り高く運動を進めている様子がうかがえた。〝次の一歩〟に向けたヒントが得られたフォーラムになった。

（まとめ　非核いしかわ編集部）

◎「議員ウォッチ」ホームページ（https://giinwatch.jp/）に中村涼香さんの石川・福井訪問記がアップされています。ご参照ください。

「議員ウォッチ」石川訪問レポート

野々市市長及び議長と核兵器禁止条約への対応を懇談

写真左から粟貴章市長と北村大助議長と懇談

【中村涼香】議員ウォッチでは、全ての国会議員、都道府県知事、自治体首長、市町村の核兵器禁止条約（以下、核禁条約）への賛否につき調査しています。今年四月には統一地方選挙があったため、地方自治体にも働きかけています。安全保障は国の外交政策と言われるが、攻撃されたとき、一番被害を受けるのは地域住民であり、自治体とも密接な関係があります。今日はこのあたりのご意見を伺いたいと思います。

【粟貴章市長】一九八四年の平和都市宣言の具体的な取り組みとして、中学生を広島へ派遣する「平和の旅」がある。毎年市民から千羽鶴を募り、広島平和記念公園の「原爆の子の像」に献鶴している。私も同時期に広島で開かれた平和首長会議総会にも出席したことがある。コロナ禍でこの三年間は「平和の旅」は中止していたが、今年は計画されており、今後も継続していきたい。原爆写真パネル展は市所有のパネルと広島平和記念資料館又は長崎原爆資料館から借りて毎年実施し、「平和の旅」の中学生の感想文も掲示している。また原水爆禁止の平和行進にも出来る限り協力させて頂いている。

【北村大助議長】戦後七八年になるが、「平和の旅」は四〇年近く続いており、議会としてもこの事業は継続してほしいと願っている。市会議員選挙を終えて、新人議員を含めて平和のこと、国のこと等の観点から核禁条約について勉強したい。地方議会は所属している市政に限らず、国際社会の動向について国会議員だけでなく地方議会も問題を共有して学ぶことが大切と考えている。

【中村】先ほど議長さんが「地方議会から世界の動きに学んでいきたい」と話されたことに大きな可能性を感じています。私は昨年六月の核禁条約第一回締約国会議に参加しており、野々市市の中学生が被爆地広島を訪問することの大切さがよくわかります。生を見ることの大切さ、自分の価値観が形成されるこの時期は大きな影響を受けることを実感しています。

核兵器の問題は、七八年前の広島・長崎の問題だけではない。私たちも当事者だという意識を持つことがこれから被爆者の人たちがいなくなる時代では特に重要だと思っています。野々市市の「平和の旅」も当事者意識を盛り込んだ事業として続けていただきたい。

【神田順一】昨年の平和事業アンケートでは、核禁条約など安全保障は「国の専権事項」であり、地方自治体は意思表示しないという回答が殆どだった。県内では全自治体が「平和都市宣言」を採択し、全市町が「平和首長会議」に加盟しており、全ての自治体が「核禁条約」意見書を提出するのは至極当然と思う。なぜそうならないのか。

【粟市長】核保有国と非核保有国の核禁条約への考え方に大きな差異があり、全世界が同じ方向に向かうことが難しい現実がある。その中で被爆国日本は、核保有国を含めて条約に批准する見通しがあれば、当然の選択をすると思う。日本が核禁条約に批准することにより、核保有国に対してどのような強い影響力を及ぼせるのか。或いは核保有国と非核保有国の対立を広げることになるのか、日本が両者の「橋渡し」することは非常に悩ましい。

行政の首長として、国の政策に対して判断するのは難しいというのが私の率直な思いだ。

【神田】県内では白山市と内灘町で意見書を提出した。内灘町議会の場合は非核石川の会が陳情して町議会議長と懇談した際、議長から議会運営委員会に諮り、議案提案として本会議にかけることを示唆された。「核禁条約」意見書が採択された二〇二一年九月議会には、地元紙記者も取材に来ており、「国は国だ。議会は議会だ」と腹をくくった議員の発言を報道していた。平和施策では先陣を切っている野々市市が「核禁条約」意見書でも活路を開いていただきたい。

【粟市長】この問題について国会の議論が十分にされていないのではないか。日本はどのような方法で核兵器をなくすのか、政府の考え方、見解がわかりに

くい。国会論議が活発になれば、報道を通じて市民にも理解が広がり、よりグローバルな視点で論議ができると思う。

【中村】私たちも国会でどういう議論がされているのか、国会議事録を追いながらSNSにアップし、これまで懇談した国会議員の考え方も紹介しています。私は核兵器をなくす方法論は核禁条約一択ではないと考えています。

議員ウォッチの活動について発言する中村涼香さん（左）と五十嵐正博さん

核保有国も参加している核拡散防止条約（NPT）も有効な手段ですが、停滞している現状があります。日本はすぐに核禁条約に参加するのは難しいが、段階的にまず締約国会議にオブザーバー参加することが本当の意味の「橋渡し」と考えています。

【粟市長】核保有国の考え方をどうしたら変えていけるのか。そのために有効な方法は何かについて真剣に議論するべきだ。国に対して核兵器をなくす方法論を含めて議論するよう働きかけてほしい。

【北村議長】条約は国家間の約束事だから条約に批准することは大きな効力があると思う。日本や外国の若者たち、戦時下にあるウクライナやロシアの同世代の若者たちが核の問題についてどう考えているのか大いに関心がある。

【中村】議員ウォッチの調査では、今三六％の国会議員が条約に賛成であり、反対は二～三％位であとの方は未回答です。賛否を含めて国会議員の半数以上が立場を表明しなければ議論ができないと思います。国会議員の地盤は地元選挙区にあるので地元からのプッシュがすごく大事です。国会議員の選挙公約がどこまで達成されているのか、市民の側から監視することを議員ウォッチでは粘り強く活動していきます。

【神田】議員ウォッチは、核兵器の問題について国会や地方議会の議論を活発化してほしいと全国四七都道府県を訪問すると「腹をくくった」若者たちが頑張っていることがわかる。この意を汲んで私たちも自治体や議員への働きかけを続けていきたい。

◎五月二六日、野々市市役所内で粟貴章市長、北村大助議長と非核石川の会の懇談要録です。

連載開始五〇周年記念企画
「はだしのゲン」フィールドワークに参加して

末友 雅子

『はだしのゲン』マンガ連載から五〇周年。六月三日にゲン（つまり作者の中沢啓治さん）の八月六日の足取りを歩くフィールドワークが広島で開催された。道順は、①ゲン（中沢さん）の生家跡といわれた所から通っていた神崎国民学校（現在は少し移動している）、②中沢さんが母と再会した舟入川口町の電停と約一時間、その場その場で『はだしのゲン』のマンガの「その場面」の絵を片手に実行委員長の渡部久仁子さんが説明された。マンガを念頭に置きつつ、中沢さんの実際はそうだったのか…、と教えていただいたことを書き留めておきたい。

案内役を務めていただいた渡部久仁子さん

◇中沢さんは被爆後自宅へ戻るが火の勢いで近づけず、家族の最期を目にはしていない。マンガ描写は後日母から詳細に話を聴いたもの（お母さんはよくぞ語ったものだ）。

◇学校の塀を背に被爆したゲンは、折れた立木と倒れた塀の隙間に入るような形で奇跡的に生き残った。

◇体全面にガラスが刺さった人、皮膚を垂らした真っ裸の人、足の皮膚を引きずってズルズルと歩く人、六歳の中沢さんには自分の目がカメラのレンズのようになり、頭の中でカシャカシャとシャッターを押すように残っていった（六歳の目線から大きなおとなたちのその姿は筆舌に尽くしがたいものだっただろう）。

◇母は被爆直後ひとりで子ども(妹)を産んでいた。中沢さんが取り上げたわけではない。

中沢さんは生前「母がいなかったら広島駅で浮浪児になって死んでいたか、犯罪者になっていた」と繰り返し言われていた。一家の柱の父親を亡くした家族は生活再建も叶わず、カラ元気でも出さないと死んでしまう。「麦のように生きろ！」苦しいときは父親の言葉を思い出し怒り、笑い、歌い生き抜いたゲン。沢山のマスコミが同行したフィールドワーク、「一時の話題で終わらせるなよ」と中沢さんに言われている気がした。

（NPO法人はだしのゲンをひろめる会副理事長）

6月4日、中沢啓治さんのお墓参りにて

連載開始五〇周年記念イベントin広島　参加報告

今一度、読み広げたい「はだしのゲン」

白﨑　良明

漫画『はだしのゲン』連載開始五〇周年記念上映会が六月四日、広島市の映画館「横川シネマ」で開催され、参加した。

舞台で挨拶する白崎良明さん（左）と英語版翻訳者の西多喜代子さん

上映会の冒頭で『はだしのゲン』を英語・ロシア語・韓国語・中国語に翻訳した皆さんが紹介され、日本語『はだしのゲン』をそれぞれの言語で表現し、外国語版を紹介した。私はロシア語版を翻訳された浅妻南海江様の代理でロシア語版の初版を持ち、『バサノーギィ・ゲン』と紹介すると、「おぉー、・・・」と何人かが、「そうなんだ」という感じで反応され、ロシアのウクライナ侵略が関心を高めていることを感じた。

「はだしのゲン」作者中沢啓治さんの妻・ミサヨさんが、挨拶された。「夫は、ゲンとともに漫画家として歩み、ゲンを通して被爆の実相と悲惨さを伝え、核兵器廃絶の想いを、信念をもって描いてきた。五〇年経ったが、核戦争の脅威が増す中で、今一度、読み広げてほしい」と、訴えられた。

続いて、中沢啓治さん作詞の「広島　愛の川」を地元の小学生が「広島　愛の川」自筆原稿の映像をバックに斉唱した。私も一緒に口ずさみ、涙ぐんでいた。

「広島　愛の川」のホームページでは、原爆ドーム前の河岸で大勢が、日本の各地で、世界の各国で「広島　愛の川」が歌われているのがわかる。是非、アクセスして、中沢啓治さんの想いを共有してほしい。

映画はアニメーション『はだしのゲン』、ドキュメンタリー『はだしのゲンが見たヒロシマ』が上映された。後者は中沢啓治さんが自身の父や姉・弟を焼かれたことから始まり、自身の被爆体験と『はだしのゲン』を連載してきた思いを鮮烈に理解できるものであった。

終末時計が九〇秒となった今、さらに多くの皆様に被爆の実相を理解してもらうとともに、核兵器廃絶へ向けて、日本政府の核兵器禁止条約への署名・批准を求めた運動を進めていきたい。

浅妻様がNHK WORLD ロシア語放送で「はだしのゲン」翻訳の想いを話された。五〇周年企画でユーチューブ「ゲンの翼」を発信しており視聴していただきたい。

（NPO法人はだしのゲンをひろめる会理事長）

地元の小学生が中沢啓治さん作詞の「広島　愛の川」を斉唱

連載開始五〇周年記念事業

都道府県立図書館に「ゲン」寄贈アンケートを実施

神田 順一

ＮＰＯ法人はだしゲンをひろめる会が五月に漫画「はだしのゲン」連載開始五〇周年記念事業として都道府県立図書館（五〇館）に「ゲン」所蔵・寄贈希望アンケートを実施したところ、三五館から回答がありました（回答率 七〇％）。このうち『はだしのゲン』の所蔵は二七館ありましたが、『Barefoot Gen』の所蔵は四館だけでした。

寄贈希望は『はだしのゲン』一七館、『Barefoot Gen』は二六館

『はだしのゲン』の寄贈希望は一七館あり、その殆どは所蔵しているところからです。『はだしのゲン』がよく貸出しされている証しと推測しています。

『Barefoot Gen』の寄贈希望は二六館あり、その大半がこれまで所蔵していないところからです。また両方を希望するところは一六館ありました。

なお、『はだしのゲン』『Barefoot Gen』をいずれも所蔵していないが、「漫画本は収集の対象外としているから」と寄贈を希望しない理由を付記されたところが三館ありました。

広島市教育委員会の学校教材からのゲン削除が大きな波紋を呼んでいる中で、都道府県立図書館から多数の回答を寄せていただいたことに厚くお礼申し上げます。おかげで『はだしのゲン』『Barefoot Gen』を全国各地の公立図書館に広く普及することができました。

ゲン削除に抗して、ゲン五〇周年を契機として

『はだしのゲン』コミック版を出版している株式会社汐文社では、広島市教委の学校教材からのゲン削除が明らかになった二月一六日以降に、第二巻（八五刷）、第四巻（八五刷）、第九巻（五三刷）、第一〇巻（四九刷）を増刷しています。ゲン削除問題や「ゲン五〇周年」を契機として、改めて『はだしのゲン』に関心が寄せられ、**出版社に問合せと注文が急増している**からです。

本会では、今回の寄贈アンケート結果を励みに、引き続き「はだしのゲン」をひろめる事業を推進していきます。

（ＮＰＯ法人はだしゲンをひろめる会事務局長）

汐文社『はだしのゲン』の再版状況

巻	出版年月日	再版
1	2022年5月10日	第89刷
2	2023年4月1日	第85刷
3	2022年5月10日	第85刷
4	2023年3月7日	第85刷
5	2022年5月10日	第69刷
6	2022年5月10日	第67刷
7	2022年5月10日	第65刷
8	2022年5月10日	第57刷
9	2023年4月1日	第53刷
10	2023年4月1日	第49刷

詩人会議かなざわ「独標」より

未来の君へ届けたいもの

小洋

小さな命が　生まれたその日
小さな心が　生まれたその日
朱鷺が来たら　渡せるように
時が来たら　渡せるように
暗い　暗い　空の地下室に　隠しておいた　宝物
私も君と同じように　生きる事に　生きていく事に
苦しんだ事　悩んだ事　未来の君へ手渡して
君の力になれば幸いと　隠しておいた人としての僕
雪として　雨として　光として
君の生きる助けになる事を願ってやまない
星に願いを込めて　夜の闇に隠しておくから

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
6	23	金	11:30	原水爆禁止国民平和大行進・福井県との引継ぎ式	福井県吉崎町
	24	土	14:00	原発を考える石川女性の会総会・学習会／藤野保史さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	27	火	19:30	原発・いのち・みらいオンライン講座／種市靖行さん	オンライン講演
	30	金	19:00	いしかわ自治体問題研究所・講演会／武田公子さん	オンライン講演
7	1	土	13:30	石川のうたごえ交流会	白山市・松任学習センター・コンサートホール
	8	土	10:00	むぎわらぼうし例会／白崎良明さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	15	土	13:30	石川革新懇総会・記念講演／大門実紀史さん	金沢市武蔵町・ITビジネスプラザ武蔵6階
	16	日	10:20	被爆ピアノとうたう会	金沢市鞍月1丁目・石川県庁19階展望ロビー
	29	土	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい／ピースデイ	金沢市末広町・卯辰山・平和の子ら像前
8	2	水	10:00	平和のパネル展（～16日）	金沢市鞍月1丁目・石川県庁19階展望ロビー
	4	金	14:00	原水爆禁止世界大会in広島（～6日）	広島市内
	7	月	15:00	原水爆禁止世界大会in長崎（～9日）	長崎市内

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費2，000円

非核石川の会リレーエッセー

谷口善太郎から学ぼう

近藤 啓子

G七サミットも終わりましたが、せっかく広島でサミットを開きながら「核兵器禁止条約」への言及もなく、怒り心頭です。

戦争への流れが強くなってきている中、六月一〇日に能美市が生んだプロレタリアート作家で政治家・谷口善太郎文学碑前祭を行いました。来年は没後五〇年を迎えます。

能美市の公式書『のみものがたり』に、能美市が生んだ三大文豪の一人として紹介されています。しかし「能美市民としてはあまりにも知らない」と、いま谷口文学を学ぼうと様々な取り組みを進めています。

① 読書会を二か月に一回のペースですすめ、『踊る』『お千代』と読み、今は『綿』に取り組んでいます。一〇～一五人の参加で、二〇代の方や保守層の方も参加されています。感想も出しながら和気あいあいと楽しませてもらっています。

② 朗読劇の開催です。八月五日辰口図書館で二回公演します。手作り感一杯です。素敵なチラシも完成しました。

③ 没後五〇年を記念して、冊子の発行に取り組んでいます。

④ ドキュメンタリー映画「谷善とよばれた人（仮）」を土本貴生プロデューサーが製作中です。能美市の資料や生誕地での撮影も終了しています。今年度中には完成すると伺っています。今は楽しみでワクワクしています。

８月５日、辰口図書館ホールで計画されている「加賀耿二（谷口善太郎）朗読劇」チラシを本紙に同封します。参加を希望される方は下記までご連絡ください。

・近藤啓子　０７６１－５７－４３８７

・川本浩平　０９０－２０９３－１５９８

戦争への道を進み始めている中、谷口善太郎さんが生きていたら「絶対負けないぞ」とハッパをかけられているかもしれません。来年の没後五〇年記念イベントの開催に向け、すそ野を広げ継続していきます。

戦争を記録することの大切さ

伍賀 一道

今年も六月二九日がやってくる。七八年まえのこの日、岡山市をアメリカのB29が襲った。空から無数の焼夷弾が次々に襲い、多数の人々の命を奪った。私の両親、祖母、それに当時二歳だった姉は炎の下を逃げ惑った。市内を流れる小さな西川に多くの人が殺到し、翌朝にはその遺体で川は埋まったという。姉は空襲から数日後に、栄養失調も重なって死亡した。

空襲時に岡山で暮らしていた故高畑勲監督もこの空襲について書いている。数年前のNHKの朝ドラ「カムカムエヴリバディ」にも岡山空襲の場面が出てきた。一九四七年生まれの私であるが、幼少時よりこの状況を何度も親や祖母から聞いてきたので、まるで見たかのように惨状が頭に浮かんでくる。だが、残念なことにそれは断片的でしかない。録音しておくべきだったとつくづく思う。

義母からは、大阪大空襲（四五年三月）のなかで布団をかぶって逃げた様子を繰り返し聞いたが、一〇〇歳をこえた今では語ることが困難になっている。戦争体験者は年々確実に減っている。それにつれて戦争の話を聞く機会もめっきり少なくなっている。いまの国会議員も例外ではなかろう。彼らのなかで戦争体験者（空襲被害者だけでなく、戦地で加害者になった人も含めて）から直接話を聞いたことがある人はどのくらいいるだろう。広島出身を看板にしている岸田首相は果たしてどうか。軍事力増強どころか、核武装までも平気で叫ぶような議員を見ていると、時間が過ぎていくことの怖さをつくづく感じる。

毎年八月にはNHKが戦争の特集番組を組むが、その放送時間数は年々少なくなっているようだ。あと五〇年もたたないうちに、全国各地の空襲や、さらには原爆投下さえもなかったかのようなフェイクニュースがさも真実かのようにネット空間にあふれる可能性すらある。各地の戦争の語り部が存命のうちに肉声による記録を保存し、後世の人が容易にインターネットでアクセスできる仕組みをさまざまな形で造っておく必要を痛感する。

戦争遺跡と平和の記念碑 ⑥

治安維持法

佐藤公男

治安維持法は、一九二五年「国体」変革と「私有財産制度」否認を目的とする結社の処罰などを対象に成立。その後も改正を繰り返し侵略戦争に反対した多くの国民を逮捕・弾圧をした。名簿判明者の内、石川県関係の犠牲者は二四六人、朝鮮半島出身の犠牲者は三四人。獄死・虐殺者は、川崎悦行、西村外茂男、山本みづほ、闉清吉、安村庸次、大上末廣、布目芳一、奥村秀松、吉村光治、戸坂潤など一三人に及んでいる。（二〇一八年一一月現在）

鶴彬（1909～1938）

本名喜多一二（きた かつじ） 河北郡高松町に生れ、小学校在籍中から「北國新聞」に短歌・俳句を投稿。一九三一年七連隊赤化事件で大阪衛戍監獄に収監。一九三七年治安維持法違反で逮捕、留置され、翌年二九歳で獄死する。「手と足をもいだ丸太にしてかへし」など一千をこえる川柳と九〇点余の評論・自由詩を残す。

鶴彬を顕彰する会は、命日の九月一四日に「墓前法要の集い」「鶴彬をたたえる集い」を毎年開催している。高松歴史街道フェスティバルも同時に開催され、鶴彬の志は多くの市民県民に受け継がれている。

県内の句碑は、かほく市高松の浄専寺境内、高松歴史公園、生家跡の他、鶴彬川柳碑（金沢卯辰山公園内）がある。

浄泉寺境内（かほく市高松）

石川解放運動戦士之碑

一九九九年六月、「石川いしずえ会」「日本国民救援会石川県本部」「治安維持法犠牲者国家賠償同盟石川県本部」や多くの平和・民主団体の協力で建立された。

第一回目の合肥者は河野登喜雄、直江 博、大桑孝雄、皆本忠生、山村時治、永井泰蔵、山畑正雄、種池保直、小山辰雄、和田三次郎、竹村香住、宮前勇夫、成瀬順一、田中一郎など一五七人で、治安維持法関係の犠牲者が多く含まれている。また、石川解放運動戦士顕彰会は、毎年九月二三日に碑前で追悼集会を行っている。

金沢市鈴見町緑地

・・・・・・・・・・・・・・

左の写真は女性活動家・加藤（旧姓中村）はる（1914～1989）の墓所（加賀市大聖寺下屋敷町）を訪れる「治安維持法国家賠償同盟」と「日本国民救援会」石川県本部のみなさん。

（「平和工房 江沼の郷」主宰）

犠牲者の墓前にて

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合　絵手紙班　坂本 朋子

編集室より

本紙は次号で第三〇〇号となる。二〇一一年一月号（第一五〇号）から集団編集体制をとり、現在の会報形式に改訂してから二〇〇号、二五〇号の節目毎に「花鳥風月集」「会員エッセー集」「会員エッセー&コラム」（第二集）を順次出版してきた。今回も三〇〇号記念として「会員エッセー&コラム」（第三集）の出版を計画しており、本紙次号と共に会員諸氏にお届けできるよう作成中です。ご期待ください。（か）

二〇二三年度平和事業に関する県内自治体アンケートには全自治体から回答を頂きました。アンケートの集計結果を本紙に同封します。